



ニュースレター



Osaka Environmental Counselors Association. Nonprofit Organization

特定非営利活動法人 大阪環境カウンセラー協会 第 44 号

Apr.

ご挨拶

令和 5 年度のスタートに当たり



理事長 高井 茂

早いもので今年 OECA は創立以来、25 年の節目を迎えます。会員の皆様の力強いご支援に感謝申し上げます。顧みますと大阪ボランティア協会様のお部屋の一つをお借り出来、暫くの後、大阪 NPO センター（港区）の一角をお借りすることが出来、仕事も E A 2 1 地域事務局の承認をえて、本格的な軌道に乗ったようです。会員や人材も幸いにして順調に集まり、活動範囲も広がってまいりました。現在では、本部事務局、E A 2 1 地域事務局大阪、化学物質管理支援室、自治体協同部門、省エネ支援部門、環境教育部門、マネージメントシステム支援部門、E A 21 普及戦略部門、建設・廃棄物部門、B C P 部門の 10 部門が活動をするに至っています。又、外部からのご評価も頂けるようになり、環境省からは個人、団体に対する表彰や、大阪市からの環境関連の各所表彰を頂くようになりました。本当に喜ばしいことでございます。



2023 年度 第 25 回定時総会のご案内

開催日：2023 年 5 月 27 日(土)

開催場所：大阪環境カウンセラー協会事務所

開催方法：ZOOM（総会は WEB 決裁）

第 1 部 13:30～14:30

第 2 部 14:40～17:00



本 部 事 務 局

事務局長 水藻英子

■令和4年度（2022年）受賞

○環境大臣表彰「地域環境保全功労者表彰」・・・前田芳聰さん

長年にわたり、地域環境保全についての
小学校出前講座や地域の関係団体との連携
による環境保全活動に取り組んでいます。



○大阪市環境表彰「個人の部」・・・田中靖之さん

大阪市教育委員会事務局の理科特別授業「食品ロスを考える」への参加、「夏休みの自由研究 おおさか環境科」のプログラム監修、環境イベント「エコ縁日」「環境ふれあいひろば」での活動等、環境教育を中心に活躍されています。（2/8 大阪市役所本庁舎市長公室にて3年ぶりに開催された表彰式）



■おおさか環境ネットワーク会議の活動

大阪市環境学習情報ネットで活動する環境活動団体のプログラムをOECAが提供しています。主に環境事業協会から依頼される出前授業講師派遣など、パートナーシップを構築しています。4月に予定されていた「こどもカーニバル」は、雨天中止となり、8月に予定されていた「わくわく夏休み宿題お助け隊」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直前に中止が決まり、活動実施に至りませんでした。そこで、大阪市環境学習情報サイト「なにわエコスタイル」において、当日活用する予定だった資料を公開しています。

■ESD拠点の活動

2022年12月21日、長岡京市サポートセンターで開催された「チラシコンテスト」の受賞式に高井理事長と谷環境教育部門長が、出席されました。

このチラシコンテストは、同年10月23日(日)に長岡京市サポートセンターに登録している団体に対し実施されました。ご来場いただいた多くの長岡京市民の方々の投



票(1082名)があり、厳選な開票が行なわれた結果、OECAは、SDGs 賞を頂きました。

■レジリエンス認証事務局の活動

今年度は、更新審査もなく、事務局としては、のんびりできた1年でした。それでも、(1)大阪市環境経営推進協議会が実施するWEBセミナーにおいて、大阪管区気象台の講師に気候変動と緩和策などのプロモートを実施しました

(2)「BCPを策定して自然災害に負けない企業になる!!」セミナーとして実施されたBCPの概要と、大阪府における策定支援のセミナーに参加して、事務局としての研鑽を続けています。

(3)来年度は、大阪ボランティア協会が実施している「災害ボランティアの育成プログラム」にエントリーする予定です。

■『日々是気付』-ねえ、ねえ、教えて!!! 地層処分- 2年計画1年目

NUMOの“選択型学習支援事業”を活用して「原子力発電所から排出される高レベル放射性廃棄物の基礎」の講演と関連施設の見学を実施いたしました。

◆ 恒例となっている見学は、8月2日若いイベントスタッフや教師の皆さま4名とともに六ヶ所村の「六ヶ所村原子燃料サイクル施設」の視察研修を実施しました。

さらに、新規会員の皆様と大阪環境ネットのイベントスタッフとして活動して下さっている方々を中心にして「幌延深地層研究センター」の見学に参加しました。引き続き、ベントナイト実験などの活動にに係わる方を対象とした募集を行います。

◆ 2023年2月、3年ぶりに開催された交流会において、おおさか環境ネットの皆さんと一緒に原子力発電において発生する「高レベル放射性廃棄物の地層処分」について活動しているSNSによる動画発信やイベント時のワークショップの報告をしました。

「原子力発電賛成」ではなく、「今あるごみを何とかしなければいけない」というスタンスで取り組んでいます。

■内閣府：地方創生SDGs官民連携プラットフォーム

◆ マッチングイベント参加自治体の地域課題に対する提案として、大阪府阪南市様の公民館活動に関する提案の交流会に参加しました。

◆ 取組をPRするチャンスととらえ、官民連携の取組事例として、「すいたクールアースウィーク」in高槻クロスパルの取り組みをエントリーいたしました。私たちの活動がまだまだ浸透していない現実も知らされました。



■「TEAM EXPO 2025」共創パートナー

万博に向けた活動が盛んになってきています。OECA では、パートナー活動として提供できるリソースとして以下をエントリーしています。

- ・事業者の環境経営支援
- ・BCP 支援、スクール開催
- ・化学物質のリスクアセスメント支援

その他の項目として教育部門が提供できるプログラムについて、明記しています。

残念ながら、共創パートナーとしての活動はできませんでしたが、共創チャレンジとして3つのプログラムに参加いたしました。

(1) JFL 第 17 節 FC イベント

FC大阪 vs 東京武蔵野ユナイテッド

7月24日(日) 12:00~16:00

場所：花園ラグビー場第2グラウンド横場外

テーマ：「TEAM EXPO 2025」プログラム

「電気の旅路を知ろう」



(2) 共創チャレンジ「レッツゴー万博 2025 プロジェクト」

9月25日(日)5名がボランティア参加いたしました。ボランティアとして頑張ったご褒美に見せていただいた45,000発の花火のショーは圧巻でした。「来年もあったら、ぜひ参加したい」と参加者全員の感想でした。



(3) 「すいたクールアースウィーク」 in 高槻クロスパル

10月8日(土)「EXPO 2025」プログラム/共創チャレンジに世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて、不必要なワンウェイのプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底などの"プラスチックとの賢い付き合い方"を考えるセミナーを登録・実施しました。



■ ECU 活動報告

涉外 ECU 担当 竹本 秀人

(1) 講演活動

5月27日 京都 CSR 研究会の依頼で「江戸に学ぶ先人の知恵」を題に現住友金属鋁山(株)の前身の住友家が愛媛新居浜・別子銅山開発を行い、元祖 CSR 事例を含め、江戸時代より昭和の大成長時代までの環境問題の講話を行いました。

聴講者には、島津製作所など、京都に所在する企業に加えて、京都外語大学の副学長及び学生などたくさんの参加がありました。

2023年2月23日 同研究会 200 回の記念式典に招待され参加しました。

(2) 表彰委員会活動

環境カウンセラー全国連合会（ECU）において、表彰委員会委員長を務め「連合会代表理事表彰」並びに「環境カウンセラー環境大臣表彰」の団体、個人への表彰状授与の選考など行ないました。

(3) ECU 近畿ブロック評議会活動

近畿ブロック会長として、EC活動の支援活動をしています。

《野殿の森、2022 秋“大懇親ワークショップ”》

10月9日に野殿の森にて京都 EC 協会と協働し、OECA 主催でワークショップを行いました。「野殿の森」は南山城村にあり、環境カウンセラーズ京都の理事長が主宰し、70 年間手付かずであった広大な森林を間伐・整備し、森林保全の拠点となっています。OECA も ECU 活動の一環として参加しています。当日は、この日はあいにくの雨で、来場者がいなくて、寂しい思いをしましたが、土木のお仕事で、普段からベントナイトを使っている業者の方にベントナイト実験にご参加いただきました。高レベル放射性廃棄物の地層処分に使われようとしていることに興味を持たれ、熱心に聞いていただきました

同日、童仙房山荘に宿泊し、京都 EC 協会主催の野殿の森に生えている苔を活用し、苔玉作りを京都の寺の和尚さんが講師になり実践をまなびました。

翌日、野殿の森のイベントに ECU 代表理事が参加されました。



(4) 海外関連活動

コロナ禍で3年来WEB会議でありました日米学生会議が、対面で8月にNY, WDC、アナポリスで行われました。WDCでは、裏千家ワシントン支部の茶室で茶道のセレモニーを行う事を支援し実現しました。国際アドバイザーとして会議全体、ECとして環境分科会への支援をしています。



(5) 環境省環境カウンセラー全国事務局受託業務活動

担当：島林 泰人

ECUは前年度から引き続きこの全国事務局業務を受託しています。ECU総会に出席するとともに、2022年度事業(カウンセラー活用促進要望、事務局管理、広報・公募、研修、事例発表等)に参画しました。また、次年度も同事務局業務を落札されたので引き続き、カウンセラーの益々の活用・発展に参画していきます。

■大阪環境ネット活動報告

事務局 水藻 英子

◆ O E C A及びなにわエコ会議の活動をお手伝いしてくださっている皆さまの中から、毎年、「なにわエコ会議賞」の受賞者を推薦させていただいています。本年度は、個人会員で活動されている8名の方々が受賞されました。

- ・食ロスゲームでご活動されている富田真子さん
- ・「プラスチックごみはどうなるの？」の絵本製作とSNSを通じて活動発信をされている泉美矩さん
- ・イベントスタッフとして活動されている三田優佑さん、岸本都美さん、水藻務さん、荒井修章さん、織田祥子さん、阿南暢子さん



EA21地域事務局大阪

事務局責任者 鈴木 弘幸

2022年度は、中核地域事務局として区切りの3年目となり、関係の皆様とともにより一層、充実した活動を目指して取組んだ1年でした。

その結果、審査・判定件数は、登録33(44)、更新342(361)、中間337(302)となり、合計712件(707)となりました(括弧内は昨年値)。登録は、昨年比で11件減少しましたが、世界的な脱炭素の流れを受け、IP・GPの参加や登録申込の増加が続いており(図-3)、新年度への好循環が期待される状況にあります。期末の認証登録数は昨年が一昨年比10件減に対し、今年度は748件で前年度と同数でした。その要因は返上数が昨年比で約20件下回ったことによりますが、返上はコロナ禍3年を経てピークを過ぎたのであれば幸いであると考えています。また、判定審議は、ZoomによるWEB審議や在宅勤務の活用が定着しました。制度改革関連では審査報告書の電子化に取組み、紙資料の取扱いが大幅に減少しました。

その他の取組では2月に普及戦略会議及び認証・登録事業者向けアフターフォローセミナー(49社参加)、3月に審査員研修会(42名参加)をWEBにより実施しました。なお、懸案の審査員増員は大阪を本拠とする審査員補が2年連続で6名の合格者が誕生しました。

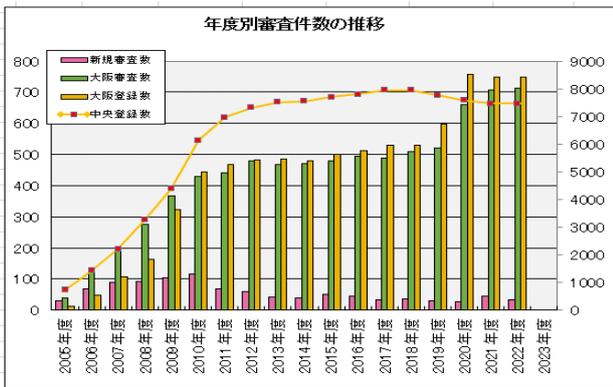


図-1「年度別審査件数の推移」

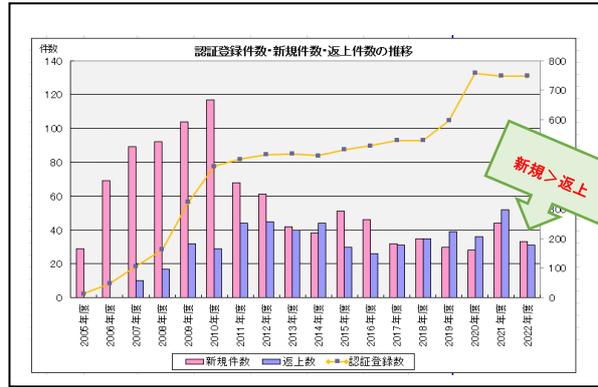


図-2「新規件数及び返上件数の推移」

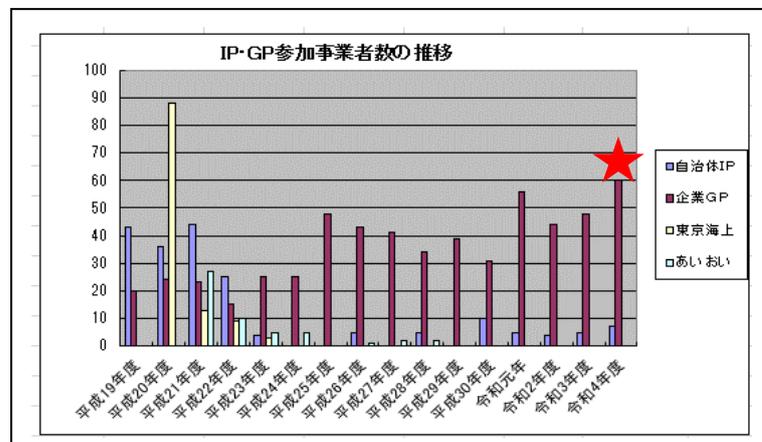


図-3「IP・GP参加事業者数の推移」

自治体協働部門

部門長 塚本 勝

大阪市環境経営推進協議会 令和4年度活動報告

協議会活動も15年目に入り、約300社の大阪市内の会員を対象に環境経営をテーマにしたセミナーや視察研修会などを企画・運営いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響で思うような活動ができませんでしたが、それでも総会と視察研修会はコロナの下火の隙間を狙ってリアル方式で行いました。好評のオンライン手法を取り入れたシリーズセミナーも10回開催し、30名の優秀受講者に受講修了書を発行いたしました。

理事会・総会

協議会設立15周年目にあたり、リアル形式の総会開催を企画し、コロナ対策を充分に行いながらホテルアウィーナ大阪様で開催いたしました。前年度の活動と会計決算、今年度の事業活動案と予算案を承認していただきました。基調講演には、元テレビアナウンサーの辛坊治郎氏を招いて、「明日を読む～溢れる情報の海をのりきるのは～」の演題で数多い事例の紹介と興味あるお話をしていただきました。



辛坊治郎氏

セミナー

中堅・中小企業が主体の協議会会員向けに環境経営の基本知識の取得を目指して、「大阪市・大阪府の環境行政施策の紹介、カーボンニュートラル、佐川急便社の物流の脱炭素取組、改正省エネ法、ESG金融、先進的な取り組みを行っている事業所のSDGs紹介、気象庁からは気候変動など10回のシリーズセミナーで開催いたしました。午前中の1時間で終わるセミナーは好評で、毎回50数名の参加で成功裏に終わりました。シリーズを通して出席いただいた参加者には、環境講座の教育訓練修了の証書をお渡したことも、今後のセミナーの在り方に結び付ける一つヒントとなりました。

視察研修

視察研修は、三田市の沢井製薬(株)様にオンラインによる自社の工場見学をしていただきました。ジェネリック医薬品の包装工場をカメラで移動していただきながらの説明で、リアルに近い見学ができました。また、朝日新聞社大阪工場ではリアルの工場見学をさせていただき、当日の夕刊の刷



り上がる現場を直接見学させていただきました。22名の参加でしたが、久しぶりの視察研修会の実感を味わうことができました。

化学物質管理支援室

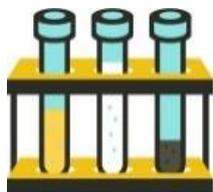
部門長 光吉 初彦

テクノヒル(株)の受託事業として9年目となる化学物質リスクアセスメント(RA)無料訪問支援は、2022年度目標88件に対して実績129件(計画比147%)となりました。

大幅増の要因といたしましては、下記2点が挙げられます。

- ① 労安法の新しい化学物質規制が2022年~2025年に施行されることが、既に公布で明らかにされているが、それに関する問い合わせが急増。
- ② RAの手法である旧来のコントロールバンディング(CB)法に限界を感じられていることに加え、①項が拍車を掛けた(既にCBの欠点を補う手法としてクリエートシンプル(CS)がリリースされ、推奨されている)。

加えて、OECA独自案件として九州の自動車ディーラーの多拠点案件を実施いたしました。



2023年度は、まだ、RA訪問支援事業再受託は未確定ですが、再受託の暁には、従来のアプローチを継続することで、RAの普及啓発活動を促進していきたいと考えます。また労働安全衛生法に関する化学物質規制が、法準拠型から自律管理型へと大きく舵を切ったものの、不明確な点が多い中、指導員は理解を深めるとともに、メリハリのある指導を行う必要があります。メンバーと議論して進めていきたいと考えています。

また、RA訪問支援以外の事業(化学物質管理者講座等)の可能性についても並行して検討を行いたいと考えます。

次に、SDS作成業務については、1件に留まりました。本件は、2年経過しましたが、事業としての展開が見通せておらず、依頼元と協議が必要なレベルと認識しています。

最後に、化学物質管理に関する啓発活動として、おおさかATCグリーンエコプラザ様のご協力により「事業経営に必要な化学物質の管理 ～持続可能な事業経営に資する～」と題して5月25日にセミナーを実施いたしました(参加者3名)。その中でRAについても訴求いたしました。

環境教育部門

部門長 谷 美也子

新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、徐々に平常に戻りつつあります。本年度も、小学校や図書館での活動を推し進めました。障がい者高齢者施設への出前授業も好評です。

環境事業協会の依頼による活動は、小学校3校で「食べ残しNOゲーム」を11回実施、338名の児童の参加を得ました。また、阿倍野図書館で「酸性雨ってなに」の出前講座を実施しました。大阪市教育委員会の依頼で、「酸性雨って何」の授業を小学校1校で3回実施、72名の参加でした。なにわエコ会議としては、前述のとおり、谷が環境教育啓発部会の部会長を務め、小学校6校での「食べ残しNOゲーム」と、大阪市科学センターでの「夏休み宿題応援、おおさか環境科」をOECAが主体となって実施しました



◆なにわエコ会議「環境教育・啓発部会」

大阪市教育委員会からの依頼により、なにわエコ会議として、大阪市内の小学校6校（受講児童合計284人）に「食べ残しNOゲーム」を使った、食品ロスについての出前授業を実施しました。これは毎年大変好評で、多くの申し込みがありますが、すべてにお応えできないのが残念です。「大阪環境ネット」個人会員の皆様に大変お世話になり、滞りなく終了することができました。



「夏休み宿題応援、おおさか環境科」は、8月6・7日の2日間にわたり、大阪科学技術センターにおいて、大阪公立大学の学生ボランティアグループCHOVORA！！と協働で実施できました。45名の参加者を得て、好評のうちに終わることができました。2023年度も実施する予定です。

「食べ残しNOゲーム」と「夏休み宿題応援、おおさか環境科」は、なにわエコ会議の環境教育・啓発部会の活動の大きな柱になっています。

他に、各種イベントに出展して、なにわエコ会議の存在のアピールに努めています。

◆なにわエコ会議「生物多様性部会の部会」

生物多様性部会の部会長もOECAが務めており、大阪市内での生物多様性の啓発と保全行動の推進に向け、活動しています。

1. 大阪市内図書館において水生生物等展示及び講演を2020、2021年度に引き続いて3図書館で実施しました。標本を見た人からは、珍しい生物が見れた。今度川に行った時には観察してみたいなどの感想が寄せられました。

2. 淀川自然探検隊

淀川河口において、水域、陸域の生物採取及び観察を行いました。内容は浅瀬に石干見という仕掛けを設置しての魚等の採取・観察、漁船一隻を貸し切ったはぜ釣り体験、河川敷を歩きながらの鳥類等の観察です。参加者からは近くの淀川にこんなに生物がいるとは思わなかった。珍しい体験で面白かったなどの感想が寄せられました。

3. おおさか環境科

河川水生生物についての講演及びスケッチ指導を
学生ボランティアと行いました。。

◆高齢者環境出前授業

11/2、2/9 大阪府内高齢者施設「ランプシェード」
参加者 52名

2/4 大阪市内老人福祉センター「ランプシェード」
参加者 30名

◆障がい者施設環境出前授業

7/23 8/11 大阪市内障がい者施設 「風力発電機」参加者 35名

8/18 8/20 8/25 10/19 1/17

大阪府内障がい者施設「風力発電機」参加者 129名

10/29 大阪市内障がい者施設

「プラスチックごみはどうなるの? 参加者 21名

11/23 大阪府内障がい者施設

「プラスチックごみはどうなるの? 参加者 17名

1/14 大阪市内障がい者施設「SDGs No.12

つくる責任つかう責任」参加者 17名

◆小学校出前授業

10/3・4 大阪府内小学校4年「風力発電機」参加者
118名

10/13・20 大阪府内小学校障害児クラス「SDGs
No.12 つくる責任 つかう責任」

参加者 47名

◆公共施設

8/20 和泉市エコクラブ「水質実験」参加者:21名

10/8 高槻クロスパル「プラスチックについて考えよ
う」参加者:8名

10/22 クレオ大阪東 SDGs フェスタ「プラスチックごみはどうなるの?」
(参加者 23名)

◆イベントブース・・・フィールドワークとして3点抱き合わせで実施

「手回し発電機10秒回して電車GO!」「ラゲッジタグを作ろう!!」

「科学者になろう!イベントナイト実験!!」

7/24 EXPO2025 花園ラグビー場 (参加者 175名)

11/12 エコ縁日 (参加者 477名)

(映像展示エリアにて放映・・・

紙芝居「でんきのごみのおはなし」)

11/26 ふれあいエコ広場(参加者 107名)



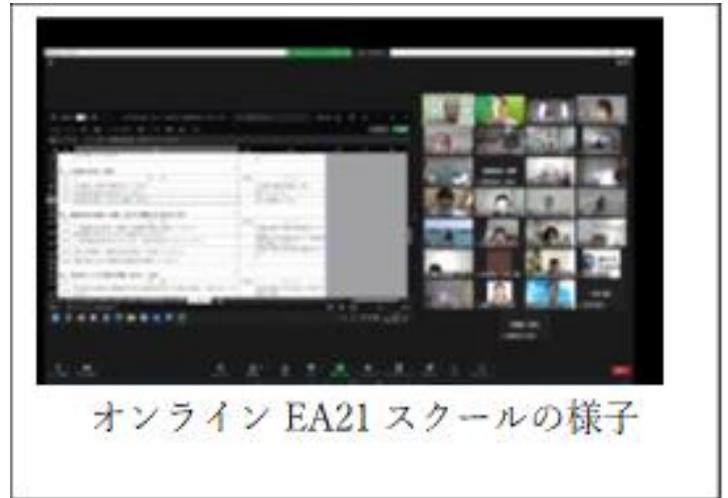
エコアクション21普及戦略部門

部門長 宇田 吉明

新たに登録された審査員を迎え、メンバーも増え、賑わいのある一年でした。地域事

務局大阪と連携し、①事業者の EA21 への取組を促進すること、②事業者への適切な助言ができるように審査員の力量向上を図ること、を主な目的として活動しました。

◆エコアクション 21 普及戦略 MTG の開催
2020 年以降はオンラインで、毎月第 3 土曜日 10 時～12 時に開催しました。自治体イニシヤティブ・プログラム（IP）及び関係企業グリーン化プログラム（GP）に加えて、新たに事務局主催のプログラム（AP）が新たに加わり、事業者の選択の幅が広がりました。IP では東大阪市で実施することができました。高槻市でも動画配信による説明会を開始しましたが、実施には至りませんでした。



GP については、なにわエコ会議、大阪府中小企業家同友会、大阪信用金庫、大阪シティ信用金庫、大阪市一般廃棄物適正処理協会、大阪府産業資源循環協会、日本デリカフーズ協同組合、ATC グリーンエコプラザ、明電舎、中部地区金融関連で開催することができました。AP については和歌山地区で実施しました。

普及活動の他、法令研究、適切で有効な助言ができるように活発な情報交換を行いました。9 時からのサロンも三々五々集まり、雑談しながら交流を深めていますので、ぜひ参加してください。

新年度は、新たに審査員になる方を数名迎えますので、総力でエコアクション 21 の普及に取り組んでいきます。

◆自治体との協働

大阪市のなにわエコ会議「環境に配慮した企業部会」に参画して、エコアクション 21 スクールと「CO2 削減・プラごみ削減コンペ」の企画・実施に協力しました。このコンペについては 23 事業所が参加され、審査会によって 11 社が表彰となり、大賞、優秀賞の 2 社には大阪市長となにわエコ会議会長の連名で、9 社にはなにわエコ会議会長名で表彰となり、3 月 22 日に表彰式・セミナーを開催しました。次年度も実施しますので是非事業者に声をかけて下さい。

省エネ支援部門

部門長 中田 進久

令和4年度の省エネ支援部門の報告をいたします。

環境省令和4年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金「工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業」(以下、SHIFT事業)の支援機関に認定されました。ですがSHIFT事業に採択される要件(CO2排出量50t以上3000t未満、設備更新で15%削減または主な系統で30%削減)を満たす事業者様の応募を実現できませんでした。また、同時に実施されたGR事業(省CO2型設備導入補助)では見積もり作成に終わって採択に至りませんでした。次年度は成功させたいと願っています。

11月の3日間、和歌山市環境監査の外部評価委員業務に従事しました。市役所の部署に出向いて省エネ、省資源、廃棄物管理の取組のヒアリングをもとに提案しました。

12月と1月2月の4日間、大阪市役所庁舎環境監査の部評価委員に従事しました。

(一財)海外産業人材育成協会(AOTS)主催で例年実施される主としてASEAN諸国への低炭素技術の移転推進に係わる令和4年度事業はコロナ禍において予算が付かず見送られ、実施件数はゼロでした。令和3年度にOECA会員の2名が担当したタイ及びインドネシア自動車関連事業者向けにエコアクション21「負荷の自己チェック」「取組の自己チェック」様式を活用したオンライン上の診断では双方向な意見交換ができ身に余る評価を得ました。令和5年度は予算が付き新たなプログラムに参加できるものと期待しています。

マネジメントシステム支援部門

部門長 内藤 正巳

2021年から部門名を「マネジメントシステム支援部門」として、エコアクション21を含め、また、環境に限らず幅広く事業者の方々の支援を担当する部門として活動を推進しております。

2022年度はコロナ禍による集合研修が難しい状況となっており、従来から実施してきました環境マネジメントシステムISO14001に必須の内部監査員養成のための「内部監査員養成講座」(2日間コース)を、1回のみですが開催(1社、受講生14名)することができました。

一方、その他事業者の支援業務としては、昨年に引き続き大手の事業者から「環境関連法令遵守等に係る業務支援」を受注することができ、2022年度も継続して活動を推進しました。事業者に関係のある法規制内容の紹介と、複数事業場を訪問してチェックリストを活

用して遵法状況を現場で確認し、2月に報告書を提出しました。この支援業務は次年度も契約更新の予定となっています。

また、昨年に引き続き、「おおさかATCグリーンエコプラザ 環境経営セミナーシリーズ」の一環として採用していただき、4月に「廃棄物処理法」についての解説セミナーを実施、コロナ禍の中ではありましたが、会場に5名の参加を得、終了後質問のため残られた方も2名あり、ニーズを感じました。

建設・廃棄物部門

部門長 西迫 一二三

環境経営支援では、コロナ禍の中、廃棄物関連団体の（公社）大阪府産業資源循環協会様、（一社）大阪市一般廃棄物適正処理協会様のグリーン化プログラムの説明会を昨年に引き続き計画しPRをしました。大阪府産業資源循環協会様の説明会（8/2）では参加事業者は4社でスクールの申込み事業者は2社有りました。大阪市一般廃棄物適正処理協会様の方は説明会（7/23）の参加事業者5社でスクール参加5社となり、計7社が参加となりました。また、（公社）大阪府産業資源循環協会様の定期総会（6/10）では大阪環境カウンセラー協会の活動についてPRを致しました。

建設業においては（一社）大阪府中小建設業協会様へ経営審査のEA21加点（2023年1月から3点）のチラシを配付し、PRを行ないましたが反応待ちの状態です。



来期は、まだ新規業者開拓の厳しい環境の中では有りますが、コロナの状況も収束に向かっており、また、SDGs、2050年カーボンニュートラルの認知度アップにより事業者の環境経営の認識も変化しつつあります。新規事業者開拓へ向けて、会員の皆様、認証取得業者様、行政書士会などのご協力を得ながら関連団体等の掘り起こしに引き続き注力していきたいと思っております。そしてグリーン化プログラム実施によるEA21推進を図っていきたくと思っています。

また、大阪府の建設業者のEA21認証取得拡大には、大阪府の建設入札加点の拡充等が必要ですが、前述の通り経営審査において加点が有ったことは、EA21のブランド化につながっていくものと考えます。来期は、地域事務局大阪の協力のもと、大阪府等へ入札加点拡充についても継続して働きかけを検討していきたいと思っております。それから廃棄物、建設業界の関連する情報を発信していきたいと思っております。

BCP部門

部門長 花村 美保

2022年度のBCP部門の活動は、2021年度と同様、わずかながらの事業収入もあり、企業の皆様に事業継続計画の必要性、サプライチェーンを止めないためのPDCAサイクル「レジリエンス認証」をご紹介し、ご支援させていただくことができました。

大阪府中小企業家同友会で、21年度に引き続き、BCP策定スクールを7回コースで実施し、参加企業は2社が参加しました。ATCエコプラザは、残念ながら0社でした。

同友会では、初回と最終回を対面、その他はZOOMを活用したオンライン形式で実施し、スクール修了生には修了証書を授与し、レジリエンス認証時の実務経験の一助として活用いただいています。

今回は、卸売業の事業者様の参加となり、「サプライチェーンを止めない」という影響が流通工程にも波及してきたことを、再認識しています。

近年、各省庁にて、認証制度も構築されており、建設業においては、レジリエンス認証と、関東地方整備局のBCP認証が相互認証となり、事業者にとっては1つの認証で他の認証の効果も対応できる利点が出ています。引き続き、事業者ニーズに対応したスクールや支援を展開してまいります。

お知らせ

2023年度通常総会日程

開催日：2023年5月27日(土) 13:30～17:00

開催場所：大阪環境カウンセラー協会事務所

開催方法：ZOOM（総会はWEB決裁）

第1部 13:30～14:30

総会内容

- | | |
|----------------|---------------|
| I：2022年度活動結果報告 | II：2022年度決算報告 |
| III：会計監査報告 | IV：2023年度計画 |
| V：2023年度事業予算 | |

当日の「出欠票」および「議決行使書」は、お手数ですが5月25日（木）までにご提出下さい。

なお、議案書の提示は、5月23日メールにて発信する予定です。議決行使書も提示いたしますので、当日ご参加いただける方も一旦ご提出ください。（当日のご意見を最優先させていただきます）

第2部 14:40~17:00

環境問題対策OECAセミナー2023（どなたでもご参加いただけます）

講演①テーマ「ビジネスと人権」

講師：一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター 松岡 秀紀氏

企業の取り組みとして環境とともに近年ますます人権がクローズアップされてきています。環境保全の課題とともに密接にかかわる人権について改めて考えます。

講演②テーマ「人権に配慮した環境教育」

講師：大阪環境カウンセラー協会 谷 也子氏

SDGs が、叫ばれる以前から、「人権に配慮した環境教育」をスローガンとして掲げ、ESD 拠点の申請時点で、大きな注目を浴びてきました。

人権クイズ・・・

OECA が提示したチラシです。

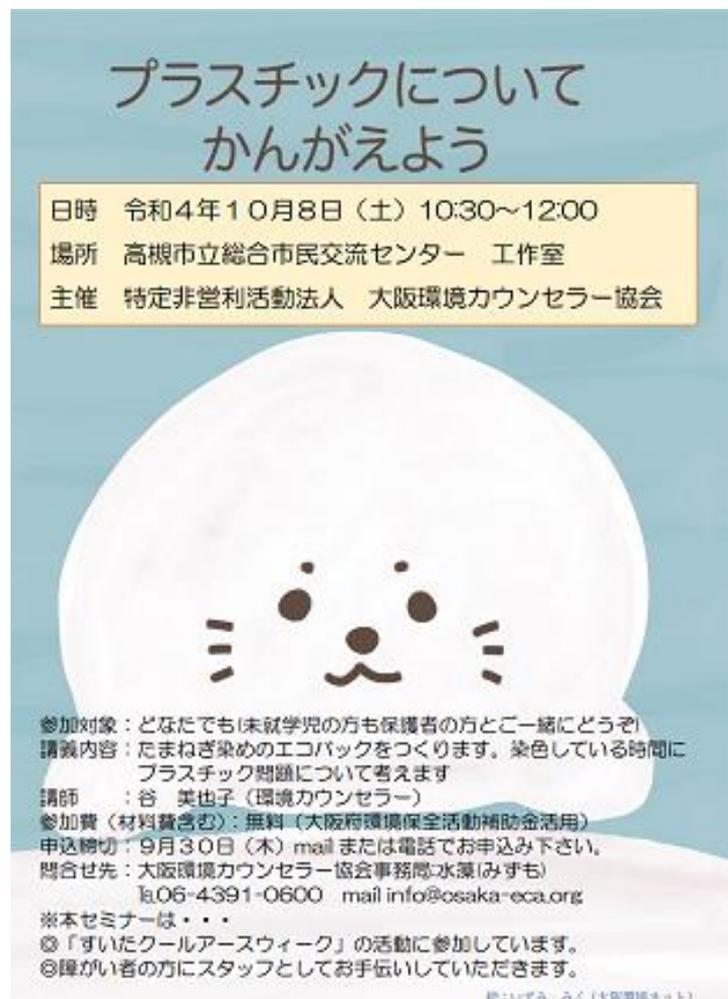
ある団体から、一文を削除するようにという依頼がありました。

A1. どの一文を削除依頼されたのでしょうか？

A2. どんな理由で削除依頼されたのでしょうか？

A3. OECA としては、受け入れられないとして反論しています。なぜでしょうか？

この3つの問いに即答できない方は、ぜひ、ご参加ください。



発行者：特定非営利活動法人 大阪環境カウンセラー協会
〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 C E 西本町ビル 8 F
e-mail: info@osaka-eca.org HP: http://www.osaka-eca.org/
発行人：高井 茂 編集：曾谷紀子/水藻英子
発行：令和5年4月

